

インターバンクの声（2014年10月27日）

金曜日に発表された第3・四半期の米企業決算の結果も概ね良好、9月の新築住宅販売件数も予想には届かなかったが高水準を維持した。先月8月の結果に4万件近い下方修正がなければもう少しドルの上昇幅が大きかったのかも知れない。もっともニューヨークで初めてとなるエボラ熱感染例が確認されたことや欧州中央銀行（ECB）による欧州の大手銀行に対するストレステストで25行が不合格、最大で10行が資本不足となると報じられたことで売りに反応したユーロが、その後主要銀行は合格するだろうと思惑が交錯したことから一転買戻し相場になるなど、ニューヨーク市場の終盤は明確な方向感のない相場となった。日曜日に発表されたそのストレステスト結果は、2013年末の時点で25行が不合格と事前に報じられた通りとなったが、その後多くの銀行が資本増強に動いたとあり、市場にとっては一安心かも知れない。今週の注目は、米連邦公開市場委員会（FOMC）などが中心になると思われるが、エボラ熱の問題や日本国内の追加緩和や GPIF に対する思惑なども絡んでくると思われ、簡単な相場ではなさそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。